女性のリーダーシップにおける交差性理論の役割：大分の女性起業家に関するケーススタディ

研究代表者：藤井 誠一, APU 教授

研究概要

交差理論は、リーダーシップのパフォーマンスと多様性との関係性に関わる研究を拡大するための有望な解決策の 1 つと考えられている。 交差性は、1989 年に Crenshaw によって最初に明確にされ、黒人と女性を同時に議論するところから始まった。 その後、Rosette et al. (2018) は、交差性に関する研究の重要性は、「複数の社会的セクションと個人のアイデンティティの間の接点を見つけること」であり、「二つの本質的に切り離すことのできない社会的セクションを同時に探求すること」であると主張した。 過去の研究では、欧米を中心に人種や宗教が議論されてきたが、人種や宗教の影響がそれほど強くない日本のような社会ではほとんど研究が行われてこなかった。

本研究は、女性のリーダーシップに焦点を当てる。 その主な理由は三つある。 一つ目は、交差性がフェミニスト研究と密接な関係にあるということである。 第二に、交差性による女性のリーダーシップ研究はほとんど行われてこなかった。 最後に、日本のようなジェンダーギャップの大きい社会における交差性については、これまでの論文はほとんど発表されてこなかった。

本研究では、三つの研究課題を設定する。 それらは、日本の女性起業家が直面しているステレオタイプとバイアスの種類の違いを探ること、交差するオーディエンスによる発達したリーダーシップスタイルと意思決定プロセスを見つけること、である。

これら三つの研究課題を追求するために、本研究は大分県で定性的なアプローチを取る予定である。 大分県は日本において女性の CEO の割合が相対的に高く、APU の卒業生の中には大分県で事業を行っている人もいる。 また、本研究チームのメンバーは、大分県内の起業家や中小企業を支援する機関ともつながりがある。 チームとして、この研究の実現可能性は高いと考えている。 調査方法には 四つのフェーズがある。 それらは、先行研究とのギャップを明らかにしインタビュー項目を開発するための文献レビュー、詳細な半構造化インタビューの実施、インタビュー データの分析、および成果物の普及である。

研究チームは、多様な経験と背景を持つ 4 人のメンバーで構成されている。 2 人は女性で残りの 2 人は男性である。 また、30 代 2 名、40 代 1 名、60 代 1 名、が属している。 また、それぞれがリーダーシップと起業家精神に関する教育と出版の研究経験を持っている。 さらに、国籍は、フィリピン 1 名、タイ 1 名、日本 2 名である。

本研究は、普及のために 3 つの方法を取る予定である。 それらは、国内学会での発表、セミナーの開催、査読雑誌の発行である。